

【全体方針】

荒川クリーンエイドを中心に、川ゴミを「調べながら拾い、学び、減らす」取り組みを通して、ゴミのない荒川、自然とともに生きる社会を目指して、以下の方針に基づき活動を推進します。

- 荒川流域で、多様なセクターが連携する荒川クリーンエイドを展開し、さらに広げます。
- 参加者に対する啓発を通して、また、調査データ等の発信を通して、川ゴミの問題や、その解決としての「ゴミをできるだけ生まないライフスタイル」の啓発を推進します。
- 全国の河川環境保全団体、海ごみ対策事業などと連携しながら、川ゴミの発生抑制に努めます。
- 川ゴミだけでなく、流域の環境保全と市民の意識の向上が進むよう、流域内外の情報交換や連携に努めます。

1. 荒川クリーンエイドの運営

【事業方針】

荒川水系全体で荒川クリーンエイドを運営する。特に荒川下流部においては、新たな実施地を開拓するなどして活動実施範囲の拡大に努める。

ゴミを拾うだけでなく、参加者が川ゴミの環境負荷や発生原因等について学び、日頃からできるだけゴミを生まない生活を実践するような啓発を更に充実させる。

マラソン大会、釣関連団体など、荒川河川敷利用者へのコミュニケーションの機会を設けることにより、流域市民・河川敷利用者への啓発活動を進め、ゴミが捨てられない機運をつくっていく。

上記により、荒川のゴミを減らす機能の強化に努める。

【主な計画事項】

① 調べるゴミ拾い

2015年度も、散乱ゴミ、粗大ゴミについて調べるゴミ拾いを実施する。新たな団体の誘致、新たな実施地の開拓に努める。

② 参加証明書の発行 <new>

実施団体に対し、参加を証明する証明書を発行し、活動参画の証しとする。

③ 説明会・体験会の開催

8月に説明会、4, 8, 10月に体験会を開催し、特に、初めて実施する団体、キャプテンや担当者が交代する団体などには必ず参加いただくよう依頼し、運営方針や実施方法の周知を図る。

④ 主催・共催会場の運営

全国ネットワークのある団体や若者団体、河川敷利用団体等と連携して主催・共催会場を運営する。

⑤ 実施サポート

実施団体の要望に応じて、活動実施のサポートを行う。

⑥ 「ゴミをできるだけ生まないライフスタイル」の啓発 ～マイボトル de ゴミ拾い。～

川ゴミの自然環境への影響や、ゴミをできるだけ生まないライフスタイルについて考える機会を提供することを目的に「マイボトル de ゴミ拾い。」キャンペーンを一層強化し、マイボトルの持参を呼びかける。

⑦ 河川敷利用者への啓発

マラソン団体、サイクリング団体、釣関連団体等と連携し、イベント会場でのクリーンエイドの実施、啓

発資料の配布など、荒川河川敷利用者へのゴミ持ち帰りの啓発を進める。

2. 生物多様性の保全

【事業方針】

里川創造プロジェクトについては、国土交通省の「荒川下流自然地管理アダプト制度」の下、荒川クリーンエイドを中心に、楽しみ、学びながら都市の自然を守ることを目指し、他の市民団体、学校、企業等と連携して自然地の環境保全と普及啓発を進める。

絶滅危惧種の復活プロジェクトでは、自治体や地域団体と連携して絶滅危惧種の棲める環境の再生を進める。

【主な計画事項】

① 里川創造プロジェクト

江戸川区小松川自然地においては、「里川小松川自然地協議会」の構成団体として、地域の団体や企業と協働し、クリーンエイド、外来種の除草、モニタリング、自然環境教室など、自然地の環境保全とその普及啓発を推進する。荒川下流自然地管理アダプト契約を結び、国と連携する。

足立区千住桜木地区においても、荒川下流自然地管理アダプト契約を結び、クリーンエイド活動を中心に、環境保全を進める。また、その他の地域についても、荒川クリーンエイド実施団体の要望に応じて、外来種の除草等の支援を行う。

② 絶滅危惧種の復活プロジェクト

荒川河川敷のヒヌマイトトンボ生息地において、自治体、地域団体等と連携して、保全活動、及びモニタリングを進める。

3. 環境教育の推進

【事業方針】

荒川クリーンエイド実施団体や地域の団体と連携しながら、人々が川ゴミの問題について学び、環境保全意識を高めるよう、荒川をフィールドとした環境教育を推進する。

人材育成プログラムについては、若者層への啓発の機会として、新入社員研修を中心に、積極的に推進する。また、社会性向上・環境研修として、様々な対象への応用にも取り組む。

【主な計画事項】

① 学校教育の支援

地域の団体等と連携しながら、学校が実施する荒川クリーンエイドを支援する。

② 人材育成プログラムの実施

チームビルディングを体験しながら川ゴミの環境負荷について学ぶ「環境に悪いゴミ拾いゲーム」を中心に、プログラムをブラッシュアップしながら実施する。

③ 自然環境教室の開催と支援

里川創造プロジェクトの一環として、市民が参加できる自然環境教室を開催する。また、クリーンエイド実施サポートの一環として、自然環境教室の支援を行う。

4. 水質調査の実施

【事業方針】

身近な水環境をモニタリングし、水環境への関心を高めることを目的に、6月の「身近な水環境の全国一斉調査」に参加する。

【主な計画事項】

① 「身近な水環境の全国一斉調査」への参加

荒川本川、及びその支川、また、流域各地の川や池などでの調査者を募集し、調査結果を取りまとめ、全国水環境マップ実行委員会に提出する。調査項目はCOD（低濃度）とする。また、同実行委員会に参加し、調査活動の展開や運営について検討を行う。

5. 流域連携

【事業方針】

荒川流域内の交流と、流域の課題の共有を目的に、源流域、中流域、及び下流域の団体と連携した活動を推進する。

【主な計画事項】

① 荒川源流エコツアーの実施

荒川源流部の恩恵を受けている下流市民が、源流の自然を楽しみながら源流の問題を共有できるようなエコツアーを企画し、参加者を募り実施する。

② 荒川流域再生プロジェクトへの参加

NPO法人荒川流域ネットワークが中心に推進する荒川流域再生プロジェクトによるアユの遡上調査活動や夏休みに実施する「魚とり体験」などに協力する。また、同NPO法人が開催する「荒川流域再生シンポジウム」に共催参加し、流域連携による「魚の行き交う川作り」に貢献する。

③ 埼玉県河川環境団体連絡協議会や川の再生交流会への参加

埼玉県内の河川団体が加盟する埼玉県河川環境団体連絡協議会（埼河連）や埼玉県主催川の再生交流会に参加し、引き続き連携を図る。

④ 荒川自然懇談会を通じた荒川下流河川事務所との協働

当フォーラム役員が多数参加する荒川自然連絡会と荒川下流河川事務所との間で行っている「荒川自然懇談会」を官民協働の場とし、荒川の自然の回復に向けた協議を行う。

6. 他セクターや全国・世界とつながる活動

【事業方針】

全国の川や海とつながって川ゴミ問題の解決、発生抑制に取り組むことを目指し、川ゴミ拾いの全国ネットワーク構築を本格的に開始する。また、業界団体等と連携した、ゴミの発生抑制に向けた啓発の取り組みも視野に入れる。

【主な計画事項】

① 全国の河川との連携 ～全国川ごみネットワーク～

他河川でゴミ拾い活動に取り組んでいる主な団体のネットワークの組織化を進め、更に広げる。そのネットワークにより、第2回川ごみサミットを開催する。

② 関連団体との連携

川や海のゴミ削減に向け、行政・自治体、業界団体、河川協力団体など関連する他団体との連携を進める。

③ 海ゴミとの連携 ～一般社団法人 JEAN との連携～

世界の海洋ゴミ調査と世界の海ゴミ問題の解決に貢献すべく、荒川クリーンエイドのゴミ調査結果を JEAN に提供する。

7. 広報・情報発信

【方針】

各種情報媒体を活用し、主に次の目的で広報・情報発信活動を展開する。

- ・荒川クリーンエイドへの参加者・賛同者を増やす
- ・会員・関係者間のコミュニケーションを促進し、情報や運営方針の共有を図る。
- ・川ゴミの発生抑制を目指し、調査データ等を活用した情報発信を行う。

【主な計画事項】

① ホームページ

最新情報や各詳細コンテンツの充実を図るとともに、見やすいページ作りに努め、随時更新していく。

② ニュースレター

会員・関係者との情報共有を図るべく、年2回発行する。

③ Eメールニュース（メールマガジン）

毎月1回の配信を継続する。

④ 報告集

ゴミの調査データや活動の成果を集約した報告集を発行する。会員・関係者間の情報の共有を促進するような内容と、よりわかりやすい表現を更に検討する。

⑤ ポスター、リーフレット

実施団体が秋のクリーンエイド参加者を募集する支援として作成、配布する。

⑥ フライヤー

川ゴミの現状について知ってもらう、ゴミを捨てない啓発等を目的に、啓発資料を作成し、関連団体と連携し配布する。

⑦ 映像<new>

荒川クリーンエイドの意義が楽しく伝わり、参加を促すような映像を制作し、公開する。

⑧ ソーシャルメディア

Facebook を活用してタイムリーな話題を提供し、荒川クリーンエイドや川ゴミ問題への関心を高める。

⑨ イベント出展

環境やボランティアに係るイベントに出展する。荒川クリーンエイドへの参加の促進、川ゴミの発生抑制につながるよう、イベントごとにターゲットやテーマを吟味し、効果的に情報発信を行う。

また、荒川クリーンエイド実施団体や地域の団体等が、イベント出展において、荒川クリーンエイドや川ゴミ問題について効果的に情報発信できるよう、パネル、紙芝居の貸し出し等の支援を行う。

⑩ セミナー開催

毎日メディアカフェでのセミナー開催などを通して、活動に関する情報発信を行う。

8. 組織運営

【方針】

報告会及び連絡会を通じて、会員等とのコミュニケーションを活性化し、また、理事・運営委員会を通じて、より円滑な組織運営を図る。

【主な計画事項】

○報告会の開催

活動の成果について会員・関係者等と共有する、報告会を開催する。

○連絡会の開催

活動における課題と次年度の運営について会員・関係者等と共有する、連絡会を開催する。

○理事・運営委員会の開催

総会議案、人事等について協議・決定するため、理事会を開催する。

事業を円滑に進めるため、運営委員会を随時開催する。

○ファンドレイジング（資金調達）

自主事業を積極的に進め、自主財源基盤の強化に努める。

2015 年度活動計画の概要一覧(案)

| 事業 | 活動名 | 概要、日程等 |
|-----------------------------|---------------------|--|
| 1 荒川クリーンエイド の運営 | 荒川クリーンエイド 2015 | 2015 年 4～12 月 |
| | 荒川クリーンエイド 2016 | 2016 年 1～3 月 |
| | 説明会・体験会 | 8 月 29 (土) 説明会・体験会 (足立区生涯学習センターを予定) 4 月 12 日 (日)、10 月 12 日 (祝) 体験会 (江戸川区 下平井水辺の楽校) |
| | 主催・共催会場の運営 | 4 月 12 日、10 月 12 日江戸川区下平井水辺の楽校 4 月 25 日 (土) 板橋区戸田橋陸上競技場 6 月 14 日 (日) 葛西橋周辺 ほか 7 回程度を予定 |
| | 啓発 (マボトル de ゴミ拾い。他) | クリーンエイド実施時、各種イベント時など随時 |
| 2 生物多様性の保全 | 里川創造プロジェクト | 里川小松川自然地協議会の一員として活動 9 月 12 日(土)バッタとなかよし 9 月 植生モニタリング |
| | 絶滅危惧種の復活プロジェクト | 自治体、地域団体等と連携して実施 |
| 3 環境教育 | 学校教育の支援 | 小松川自然地での支援を中心に実施 |
| | 人材育成プログラムの実施 | 4 月に新入社員研修実施、プログラム開発は通年 |
| | 自然環境教室の開催と支援 | 独自開催、及びクリーンエイドの後に |
| 4 水質調査 | 身近な水環境の全国一斉調査 | 6 月 7 日 (日) を中心に一斉調査 |
| 5 流域連携 | 荒川源流エコツアー | 9 月 5 日 (土) ～6 日 (日) (予定) |
| | 荒川流域再生プロジェクト | 魚とり体験会 (8 月予定)、シンポジウム (2 月予定) |
| | 埼玉川の再生交流会 | 埼玉県主催イベントに参加 (2 月頃予定) |
| | 荒川自然懇談会 | 随時参加 |
| 6 他セクターや全国・世 界とつながる活動 | 全国川ごみネットワーク | 実行委員会の開催 (予定) 川ごみサミット開催 (1 月頃予定) |
| | 関連団体との連携 | 川ゴミ削減に向けて随時 |
| | 一般社団法人 JEAN との連携 | 荒川クリーンエイドのデータを提供 |
| 7 広報・情報発信 | ホームページ、Facebook | 随時更新 |
| | E メールニュース (メールマガジン) | 月 1 回、計 12 回の発行を予定 |
| | ニュースレター | 8,1 月に発行予定 |
| | 報告集 | 2 月に発行予定 |
| | ポスター・リーフレット | 8 月に作成予定 |
| | 啓発資料 (フライヤー) | 8 月に作成予定 |
| | 映像 | 9 月に公開予定 |
| | イベント出展 | 6 月 6 日江戸川区環境フェアほか |
| セミナー | 毎日メディアカフェなど (予定) | |
| 8 運 営 | 第 15 回定期総会 | 5 月 15 日 (金) 北とびあ |
| | 報告会 | 2 月上旬に開催予定 (会場未定) |
| | 連絡会 | 2 月上旬に開催予定 (会場未定) |
| | 理事会・運営委員会 | 随時開催 |